

## 5 - 14 東海地方の地磁気全磁力変化 (1983年3月 - 1985年9月)

### Variations in the Geomagnetic Total Intensity in the Tokai District (March, 1983 - September, 1985)

東京大学地震研究所  
八ヶ岳地磁気観測所

Earthquake Research Institute, University of Tokyo

東海地方では、プロトン磁力計による全磁力連続観測を実施している。ここでは1983年3月より1985年9月までの結果を報告する。

第1図は東海地方における連続観測点を示したもので、四角で記した4個の観測点、富士宮篠坂 (SHN)、静岡市俵峰 (TAW)、浜岡 (HAM)、春野 (HRN) にプロトン磁力計が設置されている。

これら連続観測点と八ヶ岳地磁気観測所との全磁力差を示したのが第2図である。各観測点と八ヶ岳地磁気観測所との間で、夜間値 (毎日0h40m - 3h00mの10分間隔の15個の測定値) の差をとり、その5日毎の平均値を図示したものである。また、5日平均値の標準誤差の2倍を誤差範囲とした。上段からそれぞれ富士宮篠坂 (SHN)、俵峰 (TAW)、浜岡 (HAM)、春野 (HRN) と八ヶ岳地磁気観測所 (YAT) との差、最下段は八ヶ岳地磁気観測所における全磁力夜間値の5日平均値である、

これまでの報告でも指摘した通り、浜岡 (HAM) では数か月の変動が異常に大きい。この傾向は現在も続いており、データが蓄積されるに従い、山-谷間の振幅が6nTに達する年周的变化をしていることが明らかになった。同様の年周的变化は他の観測点でも見られるが、その変化量は約2nTかそれ以下である。これまでの繰り返し磁気測量結果をも考慮すると、浜岡周辺地域では、御前崎に至る10 - 20kmの範囲で、全磁力の年周的变化が異常に大きいと考えられる。

#### 参 考 文 献

1) 東京大学地震研究所、八ヶ岳地磁気観測所：

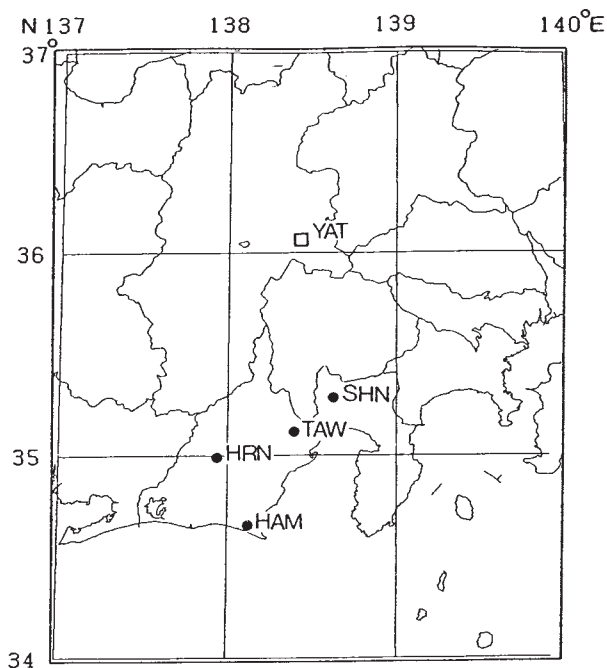
御前崎周辺の地磁気全磁力変化 (1979 - 1983), 連絡会報, **30** (1983), 281 - 286.

2) 東京大学地震研究所、八ヶ岳地磁気観測所：

東海地方における地磁気全磁力観測, 連絡会報, **31** (1984), 360 - 364

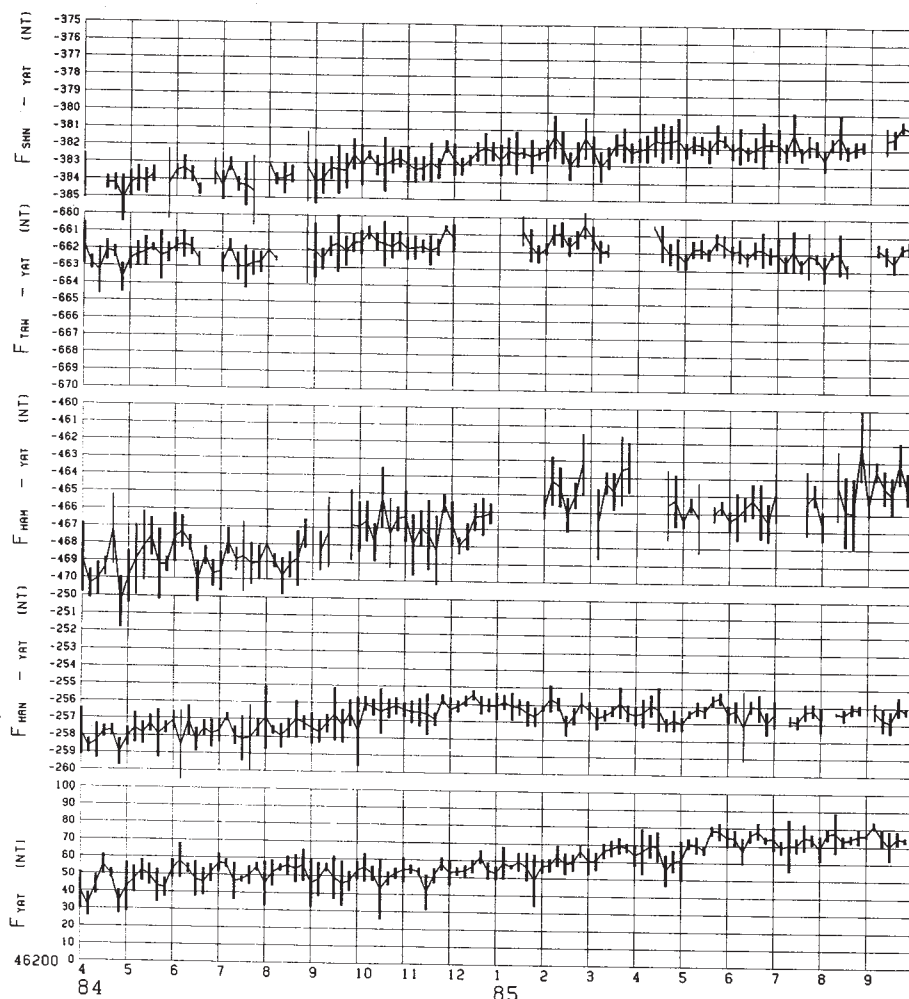
3) 東京大学地震研究所、八ヶ岳地磁気観測所：

東海地方の全磁力変化, 連絡会報, **33** (1985), 329 - 331.



第1図 全磁力連続観測点

Fig. 1 Distribution of magnetic stations. YAT is the Yatsugatake Geomagnetic Observatory.



第2図 連続観測点での全磁力変化。上から八ヶ岳地磁気観測所を基準にした富士宮篠坂 (SHN), 俵峰 (TAW), 浜岡 (HAM), 春野 (HRN) での全磁力変化。最下段は基準にとった八ヶ岳地磁気観測所での全磁力変化。

Fig. 2 Differences in the total intensity between the respective continuous observation sites and the Yatsugatake Geomagnetic Observatory (SHN-YAT, TAW-YAT, HRN-YAT, HAM-YAT). The diagram at the bottom is the variation in the night-time value of the total intensity at Yatsugatake. All points are five day means of night-time value with 95% confidence interval.